

59回生 学年通信 Brave

卒業号

2024 年 2 月 29 日発行



学年主任

「自分は何のために生きているのだろうか？」

ただ只管、毎日を部活動や勉強に打ち込んでいた高校生の頃はそんな問いには到達できず、大学生になった時にふと思い浮かんだ“問い”。

20 代から、30 代、40 代と年を重ねる中で、この問いに対する答えは少しずつが変わってきた。様々な人との出会い、悲喜交々の経験が答えを変遷させてきた。40 代後半、人生の半分を過ぎた今の私は、自身の人生の意味を臆気ながらも掴みかけている。(と、信じたい。)

ここにたどり着く過程に 59 回生のみなさんと共に過ごした 3 年間は不可欠だった。

これからたくさんの人と出会い、様々な経験を重ねる中で、自分だけの“正解”を見つけてほしい。「生かされる」のではなく、自ら進んで「生きる」道を探しながら、豊かで逞しい人生を歩み続けるみなさんをこれからも応援している。

学年副主任

いよいよ3年間の高校生活の卒業の日を迎えました。今の気持ちはどうですか？これから始まる新生活に期待しつつも、新しい環境への不安がある人もいるかもしれません。

自分自身の高校卒業のことを少し思い返してみました。近くに大学がない地域に住んでいたので、自分も含め周りの子はほとんど実家を離れ一人暮らしを始めました。何も知らない土地で、一人で生活する不安はもちろんありました。しかし、そんな不安もいざ大学が始まるとすぐになりました。同じ学科の人が話しかけてくれたり、サークル仲間ができたり。大丈夫です。みんな新しい環境でスタートします。きっとすぐに新しい出会いがあり、助けあえる仲間ができます。さらに、大学生活を無事にスタートできた理由のひとつに、高校の友達の存在がありました。定期的に連絡を取り合い、たまに集まってはお互いのことを話すことで気持ちがリフレッシュできていました。

皆さんも高校生活の中で出会った仲間とのつながりを大切にしてください。楽しいことばかりではなく、悩むことも多く、高校生活は非常に濃いものだったと思います。その中で得た友達はお互いに支えあえる存在であり、一生の友達になると思っています。何気ないことでも言い合って笑いあえる関係っていいものです。一つ一つの出会いを大切に、宝物をどんどん増やしていきましょう。それでは、59回生の皆さん、卒業おめでとうございます！

1 組担任

新しい日々に……

繰り返す ことの出来ぬ青春よ

その街に 君だけの ドラマがある

残雪に輝く山に 背を向けて

終わりのない 旅路につけ

「青春 18」 伊藤敏博

今の高校生には卒業することが「自分の世界」の広がりにはならないかもしれない。

特別、「自由」になったとも「決定権」を手にしたとも感じないかもしれない。

でも「責任」を実感することは私にとっては、「大人」になった(なってしまった?) ことの最初の経験だったと覚えている。

「誰の手も借りないで一人で難問を解決する」時の心細さ、縮み上がるような「不安」。それに耐えようと踏みとどまる「決意」。

……どうか立ち向かう勇気を持って臨んでほしい。

2 組担任

“卒業に寄せて”

卒業を間近に控えた59回生の皆さん、今年は人生の中でとても大きな区切りの年。新しいスタートです。3年間の高校生活を振り返りながら、これから始まる未来に思いを馳せ、期待と不安でいっぱいではないかと思います。高校生活で築き上げた経験や実績から得られる自信と満足感。そして慣れ親しんだ生活や友達から離れる心細さ。でも、その不安な気持ちを乗り越えなければ、新しい出会いは無いのでしょうか。何かを手に入れるためには何かを捨てなければならない。安定した現状に満足するのではなく、築いてきたものを一旦捨て、また一からスタートする勇気と謙虚な姿勢。それは決して簡単なことではありませんが、私自身も常にそうありたいと思います。

「青春時代にいかに感動する場面に会えるか、それによってその人の人生の価値が決まる」とある本で読んだことがあります。これからの君達は、社会の荒波に船出することになります。いろいろな困難が待ち受けていることでしょう。本当の自分を見失わず、自分の夢に向かって邁進してほしいと願っています。

59回生の健康と幸せをいつも祈っています。頑張れ、59回生！

3 組担任

卒業おめでとうございます。

新しいターンが始まる君たちに、私が高校の時にずっと机に貼っていた言葉を贈ります。

負けると思ったら あなたは負ける

負けてなるものかと思えば 負けない

勝ちたいと思っても、勝てないのではないかなと思ってしまったら、あなたは勝てない

負けるのじゃないかな、と思ったら あなたはもう負けている

というのも、成功は人の考えから始まるからだ

すべてはあなたの心の状態によって決まるのだ

自身がなければあなたは負ける

上に登りつめるには 高揚した精神が必要だ

何かに勝つためには 自信が必要だ

人生の闘いに勝つのは、必ずしも最も強くて、最もすばしい人ではない

最終的に勝利を収めるのは「私はできる」と思っている人なのだ

もう誰の言葉だったか覚えていません。たしか日本代表のサッカー選手をインタビューした雑誌に載っていたもので、そのサッカー選手も誰かから教えてもらった言葉だったと思います。私は高校生の時にこれを見て、妙に納得し、何かしらの勝負所でこの言葉に助けられてきました。リレー形式になりますが、この言葉が次は君たちの役に立てるように…

すべては心の持ち方次第。君たちのこれからの活躍を心より願っています。

4 組担任

59回生の皆さんと過ごした2年間の中で私が喜びを感じたのは、皆さんが様々な事に対して前のめりになっている姿を見た時です。文化祭の演劇や体育祭のダンスなどでは時間を忘れるくらい熱心に取り組む姿をたくさん見ました。また、大学受験の有無に関係なく、たくさんメモを取りながら真剣に授業を受けている人もたくさんいました。そうした時、皆さんは「これは将来役に立つだろうか？」とか「これはやる意味があるだろうか？」など余計なことは考えず、ただ目の前のことに楽しさや喜びを感じ、その充実感のみで行動できていたはずです。そのような瞬間は私たちの生活の中にどれくらいあるでしょうか？残念ながら私たちはいつも意味や目的を考えすぎてしまいます。「コスパ」や「タイパ」を判断の基準にしています。でも、本来、私たちの営みには意味や目的のないものもたくさんあるはずですし、そういうものを大切にした方が人生は楽しくなるはずです。大学受験のためだけの高校生活は楽しいでしょうか？「役にたつ」ことだけを学ぶ人生は楽しいでしょうか？私はそうは思いません。今になって自分の学生時代を振り返ると、「将来役に立つだろう」と考えて打算的に取り組んだことよりも、その時々の方が楽しみを見出し、前のめりになって取り組めたことの方が、後の自分をつくってくれた気がします。ですから、皆さんも「役に立つかどうか」や「やる意味があるかどうか」を考えすぎず、まずは何事にも前のめりになって取り組んでみてください。楽しく生きるためのヒントは子どもの頃の自分にあるかもしれません。

5 組担任

「花束ご予約承ります」通りかかった花屋さんの前に、そんなことばの張り紙があった。成果を上げたときや人生の節目など、祝福の気持ちや愛情、感謝や前途への祈りをその花束に込める。何でもない日に花束を贈る、という場合もあるが、「ご予約」となると違う。とにかく、送る相手は、大切な人である。己と向き合い選択や決断をしていくことは、とても労力のいることだが、人生を切り拓いていく上で非常に重要である。この3年間であなたが真剣に悩み、決断し、行動してきたこと、そしてその経験から得たものは、今日を生き明日を生きていくための確かなエネルギーとなる。大人になって振り返ったときに、そう感じる瞬間があってくれたなら嬉しい。

期間限定の、そして大きく成長する高校生という時期にかかわることができて幸せに思う。一人ひとりとの出来事を数え上げればきりがながいが、喜怒哀楽を共にする中で、私もまた成長することができたし、ひたむきな姿が、温かいことばが、原動力となってここまで来た。こんなにも心揺さぶられる仕事は他にないと、つくづく思う。

今卒業を迎えるあなたたち一人ひとりに、両手いっぱいの花束を贈りたい。思えば私はずいぶん前から花束を「ご予約」していたのである。卒業おめでとう。

6 組担任

仰げば尊し

～ただの化学のおじさん先生 (by 塩田) より～

卒業式では、君たち 59 回生全員で「仰げば尊し」を歌います。「仰げば尊し」とは、「仰ぎ見るほど尊いもの」という意味だそうです。では、何が「仰ぎ見るほど尊いもの」なのでしょう？

1 番の歌詞には、ただ勉強を教えるだけでなく人として大切なことを教えてくれた恩師（わが師、くれぐれも和菓子ではありません笑）への感謝が綴られています。しかし、決して「教師への恩」を強制したものでないことは、この後に続く歌詞から汲み取ることができます。「教えの庭」とは学校や教室のこと、「いと疾し（いととし）」は時期が早い・勢いが良いといった意味があります。つまり、「思い起こせばこの学校で学んだ月日はとても早く感じます」「楽しく充実した時間はあっという間に過ぎていった」という君たちの前向きで温かい思いが綴られています。

あおげばとうし わが師の恩

教えの庭にも はやいくとせ

思えばいと疾し この年月

今こそわかれめ いざさらば

卒業式では、2番を歌うことはありませんが、「互いに仲良く過ごした日頃の恩」つまり「友への感謝とはなむけの言葉」を贈る内容が綴られています。「卒業して別れた後も思い出を忘れないで」、そして、一緒に楽しく過ごしてきた友へ「立派に自立するよう自分も頑張るから君も励んでいってくれ」といったメッセージが込められており、本来は卒業式にふさわしい歌詞ですね。

たがいにむつみし 日ごろの恩

わかるる後にも やよわするな

身をたて名をあげ やよはげめよ

今こそわかれめ いざさらば

そして、いよいよ3番。「忘れることはできない 過ぎ去った日々」、そして、「別れるのはつらいけれど別れの時だ、さあさよ

なろう」と綴られています。つまり、別れの曲でありながらも、恩師や友と過ごしたかけがえのない時間と思い出を胸に、

未来へ進んでいこうとする前向きな気持ちを汲み取ることができます。

朝夕なれにし まなびの窓

ほたるのともしび つむ白雪

わするるまぞなき ゆく年月

今こそわかれめ いざさらば

ここまでくると、号泣ですね（笑）台湾でも受け継がれ、現在でも多く歌われているそうですよ。

さて、ここからは先生の独り言です。先生は、卒業式に特別なことを望んでいません。心を込めた一人ひとりの呼名に対して返答は力強く、所作は堂々とかつ爽やかに。そして、仰げば尊し・蛍の光・校歌を心を込めて皆で歌いきる、すべてごく当たり前のことだけです。

では、「仰げば尊し」の友や先生・学校への純粋な感謝の気持ちを胸に、いざ行かん 卒業式へ...

学年付

♪何のために生まれて 何をして生きるのか

答えられないなんて そんなのは嫌だ！

今を生きることで 熱い心燃える

だから君は行くだ ほほえんで

高校卒業という大きな節目に、この問いに向き合うと、どんな答えが見つかるでしょうか。みなさんは何のために生まれてきましたか。人生の目的は何ですか。自分の子どもの同世代であるみなさんと一緒に過ごしたこの2年間は、いつも母親のような気持ちでした。私の答えはひとつです。

周りの人を愛して、そして愛されるような、幸せな人生を生きてください。

♪アンパンマンは君さ 勇気を出して～

